

**仙台市介護保険審議会 地域包括支援センター運営委員会**  
**(第7期計画期間 第11回会議) 議事録**

**日時：令和2年2月4日(木) 17:00~18:30**

**場所：仙台市役所本庁舎2階 第2委員会室**

〈出席者〉

【委員】

井野一弘委員長、岩渕秀子委員、大内修道委員、駒井伸也委員、佐藤功子委員、清治邦章委員、橋本啓一委員、森高広委員、若生栄子委員 以上9名、五十音順

【仙台市職員】

米内山保険高齢部長兼地域包括ケア推進課長事務取扱、白岩高齢企画課長、千葉地域包括ケア推進課認知症対策担当課長、中村介護保険課長、山崎介護事業支援課長、大石若林区障害高齢課長  
雫石介護事業支援課居宅サービス指導係長

〈議事要旨〉

1 開会

- ・ 会議を公開とすること及び資料の一部(参考資料2)につき仙台市情報公開条例第7条第5号に該当することとして非公開とすることの確認→異議なし
- ・ 議事録署名委員については大内委員に依頼→大内委員了承

2 報告

(1) 令和2年度 事業評価 I 全国平均との比較について

米内山保険高齢部長兼地域包括ケア推進課長事務取扱から説明(資料1)

【質疑応答】

**森委員**：1pのレーダーチャートは、仙台市のような政令指定都市から村まで全てを含めた全国市町村の平均であるが、政令指定都市と村の単位では、人口や経済基盤の規模等が大きく異なる。そのような政令指定都市から村までを合算し算出した平均と、政令指定都市である仙台市を比較するのは、仙台市の実態を把握する手段としては難しいのではないかと。例えば、市のみ又は政令指定都市のみの平均から算出したレーダーチャートと比較をする方が仙台市の実態をよりはっきりと把握できるのではないかと。

**米内山部長**：ご指摘のとおり、全国市町村には規模の差があるため、このチャートが仙台市の実態を把握するための比較対象として適当なのか、といった課題があると認識している。

しかし、国から市の単位あるいは政令指定都市の単位で比較ができるような指標が示されていないため、現時点では全国平均との比較を示させていただいたが、今後は機会を捉えて、近い都市規模での比較できる指標を提示できないか、国に対し提案していきたい。

**森委員**：総合相談支援項目が水準以下になっている。今年度の取組み方針が、令和元年度の取組み方針と同じであり、「他都市との取り込み状況を参考に、センターと協議をして図っていく」と伺ったが、この取組み方針を達成することによって、評価の改善は見込めるのか。

**米内山部長**：総合相談支援項目について、全国的にも達成度が低い要因として、何をもって相談案件の終結とみなすのか、という客観的な条件を設計することが困難な点がある。センターと協議しながら、一定の基準として定めていく事についても、難易度が高いのが現状である。そのため、既に相談案件の終結条件を設定している都市の事例を参考に、評価改善に向けて引き続き検討していく。

**森委員**：仙台市の場合、レーダーチャート7項目すべてが水準以上で然るべきではないかと考えている。この事業評価が国のインセンティブ交付金の付与の算定基準になっており、評価が平均を上回っている場合、交付金の増加が見込めるため、目標を達成していただきたい。

### 3 議事

#### (1) 令和3年度 地域包括支援センター運営方針及び業務水準表について

米内山保険高齢部長兼地域包括ケア推進課長事務取扱から説明（資料2、資料3、参考資料1）

#### 【質疑応答】

**若生委員**：ご説明いただいた業務水準表の見直しは、センターがより良い地域にしていくためであり感謝している。地域住民である私たちにとって、センターは困ったときの場所になっている。やはり、私たちが、何かあったときにセンターがあるという安心感を持てるものであって欲しい。しかし、「センターが何をしているか、センターがあるのは知っているが何をしているのか、内容がわからない。」という人がいると聞いた。センターは困っている人が必要としているからこそであって、健康に暮らしている人にとっては、設置されているのは知っているが遠い存在だと思う。業務水準表に関しても、センターについて知らなければ分からないため、何かあったときに、自分たちの中学校区にセンターという頼れる場所があるという事を更に周知して欲しい。

また資料2にある認知症施策の推進の「早期診断や必要としている場所、必要とし

ている支援を受けられるように」という記載について、仙台市と認知症の人と家族の会間での相談でもあるように、認知症かもしれない人を受診に結びつけられないというケースが多い。ご家族は対応に困っており受診に結び付けたいが、本人は病院に行く必要がないという。このような両者の声の差を縮めていく手段として、私たちは初期集中支援チームを紹介するが、その後に、センターや行政が相談結果を窓口に戻していない。連携が上手くいっていないという事に繋がるかもしれないが、もし相談して何か対応した上で動きがあったら、その結果をきちんと返していただきたい。

**米内山部長**：センターの周知について、市民の方へ浸透しているものの、何か相談があるような状況に陥らない限りは知らない、という方もまだまだ多いと認識している。より幅広く市民の方に情報が届くよう、様々な媒体を用いた周知方法の中で、どのような方法が効果的か検討していき、より一層周知に力を入れていきたい。

**千葉課長**：受診になかなか結び付けられない高齢者の方や、ご苦労なさっている家族の方はつらい状態であると把握している。そのような方々が受診に結び付きやすいよう、仙台市医師会に、かかりつけ医の認知症対応力向上研修事業を委託している。研修では、まずは顔の繋がりのある先生に相談していただき、次に必要なステップの相談に繋がるように提唱を行っている。今年度はコロナ禍で開催が難しい状況であったが、医師会で様々な工夫、尽力をいただいた。

また、認知症サポート医という、かかりつけ医の相談対応等の役割を担う先生の研修も、今年度は国からリモートで開催した。このような医療関係機関との繋がりや、受診に結び付きにくい高齢者の方が適切な支援に結びつくような対応をしていきたい。

初期集中支援チームに繋いだ方の結果が返ってこないという事について、前回の委員会でもご指摘いただき、適切な対応に向けて検討しなければと認識している。関係機関と連携をする上でも非常に大切な要因であるため、今後も意識して改善していきたい。

**若生委員**：相談の中に、今まで健康に過ごしてきたため、かかりつけ医が居ない方もいる。例えば、少し怪我をして対応してもらっただけであるなど、健康に過ごしてきた方たちには、かかりつけ医を持たない方もいる。そのような方々への対応についても考えていただきたい。

**千葉課長**：そのような方も居ると認識している。先程、若生委員からもあったように初期集中支援チームをうまく活用していただければ、適切な支援に繋がると考えている。

**橋本委員**：各センターにおいて、環境や状況の違う高齢者の方々を様々な形で守るという役割を一生懸命果たして貰っているが、コロナ禍で苦労しながら様々な事業に取り組んでいるのは、ご存じのとおりである。

まず、資料2の基本方針の網掛け部分に記載のある、コロナ禍における高齢者の活動の機会の減少について、そのような状況であっても各事業をしっかりと継続し、様々な手段を用いて事業を遂行して欲しいという基本方針だと思う。実際、各センターが事業を実施していく手段として、コロナ禍の新しい生活様式をどのように保ちながら、取り入れているのかと考えていく必要がある。例えば、地域の方にはPCやスマホを勉強している方もいる。

このような手段を活用しながら関係機関の集まりに参加して貰うことや、体操教室の参加をスマホなどから参加出来るような環境整備について、仙台市はどのような手法の推奨を考えているのか。

**米内山部長**：やはりコロナ禍で、様々な活動に制約がある条件のもと、どのように活動を継続すればいいか、各センターでかなり苦労しながら活動していると認識している。コロナ禍における活動継続の手法として、今年度、各センターでどのような工夫をして活動を継続しているか、参考になる活動事例が出てきている。市でもそのような活動継続にむけた取組みを確認しており、一例として、地域ケア会議を今までのように大きな単位ではなく、地域のみで実施することや、あるいは午前午後の2部制にして少ない人数でも会議を行うような、より小さな単位で実施するセンターもあった。先程お話いただいたリモートの方法を利用し、介護予防教室を実施した事例も把握している。

この具体的な活動事例を、センター職員向け研修の中で各センターに紹介しており、更にそのまま紹介するだけでなく、実際に取組んだセンター職員にも来ていただき、実施した上で良かった点、まだ課題だと思った点を話していただき、各センターが参考にする際に、より発展的なものになるような研修を実施した。その結果、下半期の介護予防教室やケア会議の開催回数が伸びている現状もある。流行の波による影響はあったかもしれないが、次年度においても、センター任せではなく、各センターで行っている参考になる事例は積極的に情報提供をした上で、市としてもリモートの方法を使用した開催の工夫を紹介するなど、センターと連携しながら活動の継続に向けた努力をしていく。

**橋本委員**：各センターが行っている好事例集を紹介するのは良い取組みだと思う。ぜひ丁寧に各センターが連携を図れるような取組みをお願いしたい。

2pの重点取組み内にある「我が事」として「丸ごと」つながることで暮らしを支えるという文言に関して、「丸ごと」とは障害者、こども、生活困窮者が丸ごと繋がるという説明で具体的な文言の意味を理解した。国の関連する文書でも、この文言が最近使用されていると知っていたが、この文言だけでは分かりづらいのではないかと感じ

た。全ての方が自分のこととして意識を持ちながら、意識を醸成しながらなどの説明を重点取組み事項に加えた方がいいのではないかと。

併せて、「関係機関との連携強化を図りながら新たな担い手の育成」とはどのようなものを想定しているのか。例えば「支援ニーズとサービスを提供する主体とのマッチング」とはどのようなものをイメージしており、「地域の活動に対する支援」とは、地域ボランティアの助成等を考えているのか、更なる説明をいただきたい。

**米内山部長**：1点目の「丸ごと」の文言に関しては、スローガンのようなものであり、万人にとって理解しやすいものではないという指摘の通りであるため、記載の表現について工夫させていただきたい。

2点目の「関係機関との連携強化を図りながら新たな担い手の育成」について、地域サロンや様々な運動自主グループなど、通いの場の運営をなさっている方々の高齢化が進んでいく中で、新たな後継者とのマッチングが上手く行かず、活動継続が難しいという状況がある。そのような地域の通いの場における、活動の場の存続に向けて、新たな活動の担い手を地域の中で発掘し、センターが把握している活動に繋げる等のサポートを念頭に置いている。

最後に「支援ニーズとサービスを提供する主体とのマッチング」及び「地域活動に対する支援」について、具体例として、認知症サポーター養成講座を受けて、実際に認知症の方の支援を実施したいと考えている方を、認知症カフェのボランティアに繋ぐことや、地域の中で、ごみ出しの支援などの有償ボランティアを行っている方と、ボランティアによる支援を必要としている高齢者の方を把握し、マッチングさせるなどの活動を検討している。地域活動に対する支援については、具体的な助成事業についてはまだ検討中だが、担い手の育成や、サービスの提供している方とその受け手のマッチング等の取組みを通じて、地域活動が活性化するように支援していくという意味合いで記載している。

**橋本委員**：地域の世話役、町内会、仙台市社会福祉協議会、老人クラブなどの様々な団体に対し、そのような取組充実の検討を進めていただきたい。

資料3の業務水準表にある総合相談支援業務について、朱書き部分が「丸ごと」に関係していると思うが、このような実態把握や支援、地域共生社会の推進を仙台市が進めているものに関して、関係機関との連携促進、支援についての項目を、センターの業務に追加しているのはどのような意味があるのか。

また、4pの6-2、7-1内の記載について、仙台市社会福祉協議会に委託している各区に在る第1層生活支援コーディネーターの活動が期待されているが、このコロナ禍でどのような活動が出来ているか、また、区役所との連携の現状について、しっかりとその役割は果たしているのか伺いたい。

**米内山部長**：1点目の「丸ごと」に関する業務の追記について、現状でも各センターでは実践をしていると受け止めており、様々な関係機関と連携をしながら総合相談業務について、実施していただいている。そのため、センターに新たに業務を課すのではなく、現在すでに行っていたいただいている業務であるという前提のもと、第8期計画の地域共生社会の実現として、第1層生活支援コーディネーターのような複合的なケースに対応していくことを、第8期計画に合わせて業務水準表に記載した。

**白岩課長**：コロナ禍における第1層生活支援コーディネーターの状況について、活動スタートしてから一年が経つ。主に各区でセンターに配置している第2層生活支援コーディネーターと呼ばれる中学校区で活動する方が、それぞれの活動において、どうやってコロナ禍で支援するかについて悩んでいる中、第1層生活支援コーディネーターが、区の保健師とセンターがミーティングする場で、例えば、他の地域での参考事例や工夫などの情報提供を積極的に行っている。最近では、地域づくりに係るニュースレターに活動の報告が載るため、各関係団体・分野の方には積極的に情報が出るようにしている。本市も全てのセンターや区で、第1層生活コーディネーターがどのような活動しているかは把握していない。しかし、泉区の事例では、関わりのあったセンターから、第1層生活支援コーディネーターを配置していただいて、非常に助かったという褒めのコメントをいただいている。褒めていただいた上、実際に何が本当に役に立ったのかというのは、その全てを十分理解しきれていない。現在、良いところを把握しようと情報収集している。まだコロナ禍で情報収集に時間がかかっているが、活動としてはまだまだ制約はある中、最初の滑り出しとしては、皆さんしっかりと活動していただいている感触がある。

**橋本委員**：個別ケア会議の目標回数を圏域内高齢者人口の0.1%回以上とすることに関して、このような目標回数を掲げるのは、多くの事例を検討していくため必要ではあると思うが、会議の回数自体が目的になっていないかという懸念がある。必要とする方に対しては実施する必要があるが、必要に応じた回数の決定や、現状の声に合うような方法でも良いのではないか。

2点目は3職種その他職員の職務分担及び連携について、過去に何度か当委員会で発言したが、センターでも人間関係や重い業務が関係し、人の出入りも相当多いと伺っている。やはり、そのような要因を考えると3職種の間関係に関する目標設定も必要ではあるが、役職ごとの役割分担を互いにしっかりと認識しながら、役割を發揮することが重要であり、なにより、その点をコントロールしている所長の手腕がとても大きいと言われている。そのような部分をもう少し果たすべき水準に記載することで、人の固定や職場環境での円滑な運営体制がとれるのではないか。

**米内山部長**：1点目の個別ケア会議の開催目標について、今回目標を設定した主旨は、個別ケア会議の開催によって、様々な地域課題を解決して実効性が上がるように、会議そのものの厚み、底上げを目指す必要があるという理由から回数を設定させていただいた。会議の開催そのものが目的化してしまうのは、会議の形骸化やセンターの負担になってしまう恐れがあるため、その点を十分に留意しながら取組みを進めていきたい。また、個別ケア会議を実施しているか否かについての捉え方も、センターによっては、本市と認識の共有上手くができていないと聞いているため、よりセンターの実態に留意していきたい。

2点目の職員の離職防止、良好な職場環境や質の高いサービスについて、そのようなことが非常に大事なことであると考えているため、提案いただいたように所長のマネジメント力を高めることや、職員間のコミュニケーション、チームアプローチ能力を高めていく取組みを続けていく必要があると感じている。実際に、人間関係を円滑にするマネジメントやチームでいかに課題解決の体制づくりをしていくか、今後のセンター向け研修にも取り入れ、向上を図っていきたい。しかし、そのあたりを業務水準表に客観的な指標として取り込めるかについては、表現上、難しい点があるため、貴重なご意見として受け止め、実際の業務の中で生かせるようにしていきたい。

**井野委員長**：「令和3年度 地域包括支援センター運営方針及び業務水準表について」は承認としてよろしいか。

(一同了承)

**井野委員長**：それでは、当議案を承認とする。

- (2) 大和蒲町地域包括支援センター設置運営事業委託契約 受託候補者の選定について  
米内山保険高齢部長兼地域包括ケア推進課長事務取扱から説明（資料4、参考資料2）

**【質疑応答】**

**森委員**：評点の配分は、各項目の重要性の順位ということで考えてよいか。例えば、35点の項目は非常に重要視しているが、10点の項目はあまり重要視しなくてもいいという考え方か。

**米内山部長**：評点の配分と重要性について、評点の低い項目を軽視しているわけではないが、より評点配分の高い項目はセンター運営にあたって、重要な項目となっている。

**森委員**：A 法人が評価項目の3項目でずば抜けて評価が高い中で、②運営するにあたっての総合的な取組みが、他法人に比べて評価が低い、どのように認識すればよいか。

**米内山部長**：評価項目2番目の採点にあたっては、当該圏域の中でサービス提供していないと減点がかかる仕組みになっているため、その実績の有無からスタート地点が異なるという採点上の事情がある。A 法人については、当該圏域内のサービス提供実績はないという減点要素はあるが、それ以外の今後圏域内で運営をしていく上の方針、考え方が評価できるということで、総合的に高い評価になっている。そのため、サービスを実際に提供している他の法人に比べて、具体的な支障があったわけではない。

**井野委員長**：「大和蒲町地域包括支援センター設置運営事業委託契約 受託候補者の選定について」は承認としてよろしいか。

(一同了承)

**井野委員長**：それでは、当議案を承認とする。

(3) 指定介護予防支援事業所の更新について  
山崎介護財業支援課長から説明(資料5)

【質疑応答】

なし

**井野委員長**：「指定介護予防支援事業所の更新について」は承認としてよろしいか。

(一同了承)

**井野委員長**：それでは、当議案を承認とする。

4 その他  
なし

5 閉会